

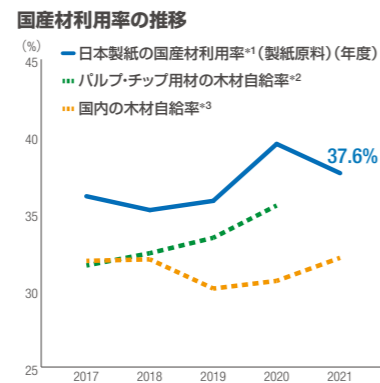
国内外に保有する自社林を通じた森林価値最大化の追求

森林は、「木とともに未来を拓く総合バイオマス企業」として多様な製品を提供している日本製紙グループにとって原料源としての価値を持つだけでなく、社会・環境に対しても重要な価値を生み出します。当社グループは、これまでに培った独自の技術・知見を活用しながら、国内外に保有する約16万ヘクタールの森林を適切に管理することで多様な価値を提供し続けます。

「森林資源の循環」が生み出す価値



生産性が大幅に向上した植林地
(左：改善前、右：改善後)



*1 国内製材所の廃材チップを含めて計算
*2 経済産業省「紙・パルプ統計年報」より
*3 林野庁「木材需給表」(用材の自給率)より

国内社有林の公益的機能の価値化

約3,500億円

環境省「平成29年度 企業の生物多様性保全活動に関わる生態系サービスの価値評価」をもとに試算

森林によるCO₂吸収源の拡大

当社は、森林の価値最大化には「森林の生産性(=CO₂固定効率)の向上」が重要と考え、研究開発に取り組んでいます。そして、森林資源の確保と生産性の向上により、木質原材料の安定調達と高品質化・低コスト化を図るとともに、CO₂吸収源を拡大することでカーボンニュートラルの実現に貢献します。

独自の育種・増殖技術の強化によるCO₂固定効率の向上

▶ 当社独自の育種・増殖技術をさらに強化して森林の生産性の向上を図り、海外植林地におけるCO₂固定効率を2030年度までに30%向上(2013年比)させることを目指します。

新規森林資源の確保

▶ 2030年度までに、アジア域を中心に当社が資源確保可能な森林を10万ヘクタールを目途に拡大します。

▶ 2022年3月、当社と丸紅株式会社は、戦略的パートナーシップを締結し、丸紅のインドネシア植林事業会社であるMHP社への技術指導により森林蓄積量の向上を目指します。

日本製紙グループの考える森林によるCO₂吸収

国内外で所有する森林は資源利用を目的とした事業計画に基づき伐採・植林されています。

2021年の国内社有林および海外植林地における森林の純増分(純吸収量:吸収量-伐採量)は約25万トン-CO₂、2021年末の総固定量は約3,100万トン-CO₂と

なりました。このほかに、海外植林事業で設置している環境保護区域の森林によるCO₂固定量が約1,000万トン-CO₂と推定されており、このような保護区の価値や機能についても今後調査や検討を進めていきます。



林業用エリートツリー*4苗事業の拡大

当社は、林野庁や自治体、苗業者との連携により、エリートツリーの苗を供給する林業用苗事業の拡大に取り組むことで国内林業の再生に貢献していきます。また、社有林の再造林地に、自社で生産したエリートツリーなどの苗を順次植林し、社有林の価値の向上を図ります。



エリートツリー苗の生産

*4 成長が1.5倍以上、花粉の量が半分以下など、優れた特性を持つツギ、ヒノキ、カラマツなどの系統